



日本共産党
Japanese Communist Party

和歌山市議員

森下さち子 ニュース

2016年12月号

市議団ホームページ <http://jcpwkym.sakura.ne.jp/>
Eメール jcpwkym@apricot.ocn.ne.jp
ブログ <http://sachikogo.exblog.jp/>
和歌山市会議員団 TEL(435) 1113 FAX (421) 4181



「12月議会報告」

11月29日に開会された定例市議会は12月14日までを会期として定め、一般質問、各常任会の審議を経て最終日、採決が行われます。現時点では常任会まで終了しました。最終の結果については、議会だより、またはこのニュースの1月号にて改めてご報告いたします。



《一般質問》

今回は「鳥獣害対策」と「公平・公正な市政運営」について質問しました。

鳥獣害対策について

* 防護柵の効果

イノシシやアライグマによる農作物の被害が後を絶ちません。イノシシの被害では西和佐

・和佐・岡崎地区が全体の32%を占め、次いで名草・安原地区が14%です。市では捕獲の確認と調査、捕獲した際の報償金や防護柵の補助金の交付、鳥獣被害対策実施隊を作り、見回りや防護柵設置作業の支援などを行っています。

* アナグマやタヌキ

防護柵を設置する際の補助金は13年前から始まり、普及が一定進みましたが、これからの維持しさらに普及することが効果的だと言います。しかし、イノシシが防護柵の下を掘って侵入することから、効果を疑問視する声も根強くあります。地元での説明会の開催など、効果や支援策があることなどに理解を得られるよう取り組むべきだと求めました。

* ミスを起こさないために にチェック体制を

数字の入力ミスなど単純な間違いは、2重3重のチェックがあれば防止できます。また、不当な要求に応える必要はなく、上に立つ長が責任を持って対応すべきです。チェック体制についても、公平・公正な対応についても改善が見られないことは、公務員としての姿勢に欠けると指摘したうえで、市長自ら調査し、改善することを求めました。

公平・公正な 市政運営について

市役所では様々な事業があり、市民が申請して交付されるものもあります。交付の基は誰もが公平になるよう決めら

師走を迎え、気忙しい日々を送っておられることと思います。今年もあとわずか。みなさんにとって、どんな年でしたか。

私は、この秋「さっちゃんまつり」を地元の広場で開催できたこと、そして、子どもたちとともに若いお母さん、お父さんが遊びに来てくださったことが、本当に嬉しい出来事でした。

雨続きで中止した1回目、順延して場所を変更して開催した2回目を経て、今回の開催となりましたが、不慣れでご迷惑をおかけしたこともあったことと思います。開催にあたり、ご尽力いただいた方に心より感謝申し上げます。

これからも地域に愛されるまつりとして、さらに工夫を重ねたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひいたします。



市役所では様々な事業があり、市民が申請して交付されるものもあります。交付の基は誰もが公平になるよう決めら

市長は「今回の件については報告を受けており、私からも是正を求めます」との答弁がありました。

市長と懇談しました

日本共産党議員団は毎年、秋に来年度の予算に盛り込んで欲しい要求項目をまとめ、市長と当局に提出しています。

市長には特に重点項目としてピックアップした8つについて、11月22日懇談をしました。

1. 住宅リフォーム助成制度を経済対策として取り組まれない。
2. 国民健康保険料は国に対し、高額な料金を改めるよう働きかけられたい。和歌山市としても1人1万円の引き下げを来年度実施されたい。
3. 旧同和対策として継続している事業は新たな地域間格差を生むものであり直ちにやめられたい。
4. 子どもの医療助成制度については所得制限を引き上げられたい。
5. 介護保険の要支援1, 2については新総合事業となっても市民負担が増えないように市が保障されたい。また、国に今までどおり、介護保険制度として実施するよう強く求められたい。
6. 滝畑地域への産業廃棄物最終処分場建設については『地域的になじまない』との立場を堅持されたい。
7. 投票率を上げるための施策として移動投票所をモデルケースとして実施されたい。
8. 新図書館構想については蔵書数、運営主体、今後のスケジュールなど具体的内容を市民に明らかにされたい。

さっちゃんねね・・・♪

<http://sachikogo.exblog.jp/>

森下さち子のブログ (11月12日) より

－ 縫い物 －

和歌山市母親大会に参加しました。

今年は基調講演はなく分科会だけでしたが、「刺し子花ふきんを作ろう」の言葉に魅かれて縫い物の体験ができる分科会へ。机に並べられた型紙や布、お手本の作品などがたくさん・・・ワクワクしながら、席に着きました。

「一針一針縫っていく」と
言葉になんとか暖かいものを感じた私です。



一緒に手を動かすみなさんと、時にはおしゃべりに花を咲かせながら、「さっちゃん、なかなか上手やん」とおだてに乗せられるうちに、いつの間にか夢中になっていました。

「刺し子」は布が貴重だった時代に、衣類の補強や防寒のため布を重ね、丁寧に刺し縫いすることから始まりました。農民の、ものを大切に作る心、そして生活の知恵から生まれた伝統の手芸だそうです。

無心になって、手を動かす新しい楽しみを教えてくださいました。



さち子の雑感

統合型リゾート施設「1R」を誘致するため、「カジノ解禁推進法案」が強行されようとしている。先日、朝日新聞に載っていました。国際観光、地域振興で税増収を図るとしていますが、先駆けて実施した韓国の実例が「江原ランド」という名のリゾート施設は、かつて炭鉱のまちだった韓国東北部舎北地区に作られました。炭鉱産業が廃校となり新産業を模索していましたが、最後に選んだのがカジノ。始まった当時は巨大な観光地に生まれ変わるかの期待があり、実際に雇用や税収もあつたものの、「描いていたものとは違った」と。「街の人口が減り、代わりに『カジノホームレス』と呼ばれる人が現れ、質屋も増えた。後悔している」との声を紹介していました。

日本では刑法で賭博を禁止しています。現在でもパチンコなどで依存症に陥る人が後を絶たないばかりか、その比率もアメリカや韓国に比べて高いと言っています。ギャンブルに頼らないまちづくりを進めることこそ求められているのではないのでしょうか。